



ガバメントAI 源内

政府におけるAI活用のベストプラクティス ーガバメントAI源内の活用等を通じて

2026年10月5日 デジタル庁 省庁業務サービスグループ ガバメントAI実装担当（源内班）

政府におけるAI活用のベストプラクティス①（デジタル庁による支援）

【事例】 AIを活用した大量のパブリックコメント意見の分類処理（全府省庁向け支援）

- 政策決定過程で国民から広く意見を募るパブリックコメントにおいては、組織的に数千件から数万件もの意見が寄せられるケースが多発。担当職員は、大量の意見の読み込み・整理・分類に膨大な時間を要している。
(例)「食料供給困難事態対策に関する基本的方針案」(本年2月、農水省食料安全保障室) → 約1.3万件の意見
「エネルギー基本計画案」(本年2月、経産省) → 原発に関連した約4万件の意見
- このため、デジタル庁では、関係省庁の要請に基づき、AIを用いて提出意見を分類・整理し、その処理結果を依頼省庁に提供するサービスを2025年6月から開始。
 - これまで、国土交通省不動産・建設経済局(3.8万件の意見)、農林水産省消費・安全局(約1,000件の意見)のパブコメ関係業務を支援。要請から1週間程度で処理結果を依頼省庁に回答
- さらに、2026年夏には、源内において「パブコメ支援AIアプリ」を全省庁に提供開始
 - 各府省庁がデジタル庁に依頼を行うことなく、自らAIを活用して大量の意見を分類・整理することが可能に
 - AIが大量意見の読み込み・分類といった一次処理を担い、職員は分類結果の確認や政策判断に注力することで、パブリックコメント業務を大幅に効率化

源内を活用することで、職員自ら実施可能

政府におけるAI活用のベストプラクティス②（デジタル庁による支援）

【事例】犯罪実行者募集情報に該当する可能性のあるX投稿のフィルタリング処理（警察庁）

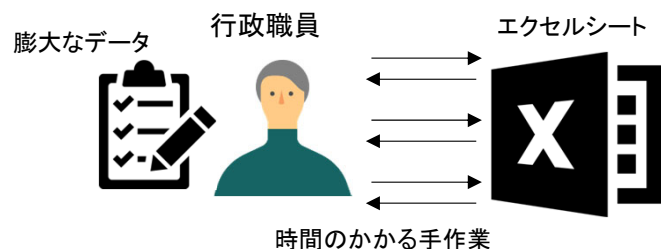
- SNSやインターネットの掲示板には、仕事の内容を明らかにせずに著しく高額な報酬の支払いを示唆するなどして犯罪の実行者を募集する投稿が掲載。
- 警察庁は、闇バイト事件への対策として、闇バイトの人材募集と思われるSNS上の投稿に対して、警察からの返信（リプライ）機能を活用した投稿者に対する個別警告等を推進中。
- しかし、警察職員が確認すべき投稿数は1週間あたり数万件もあり、業務の効率化が課題に。
- このため、デジタル庁は、闇バイトの人材募集と思われる投稿をAIによって効率的に抽出するためのシステムのプロトタイプを作成し、警察庁に提供中。
- その結果、警察職員が目視で確認すべき投稿件数が約1／3に削減

まもなく、源内を活用することで
職員自らプロトタイプが作成可能に

政府におけるAI活用のベストプラクティス③（デジタル庁による支援）

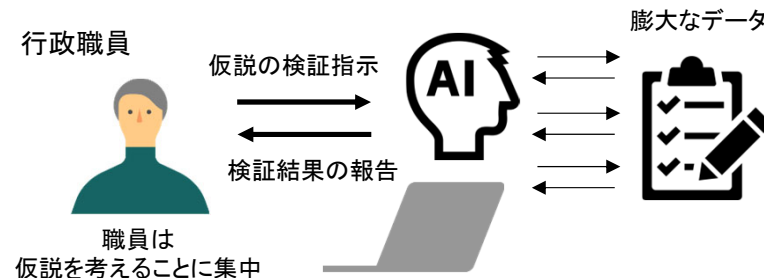
【事例】 AIを活用した大規模アンケート分析・政策仮説の検証支援（農林水産省）

- 農林水産省は、今後の米政策を検討するにあたり、米の販売農家・農業法人その他経営体に対して、今後（来年、5年後、10年後）の米の生産意向に関するアンケート調査を実施（2025年6月～8月、回答数：8,095件）
※ アンケートの主な調査項目（全32項目）：現在の経営状況（年齢、水稻作付面積、うち主食用米作付面積等）、今後（来年、5年後、10年後）の米の生産意向（拡大、現状維持、縮小等）、拡大・生産継続するに当たっての課題、自らの生産コストの把握状況など。膨大なアンケート回答の分析作業に際してデジタル庁に協力を打診。
- 農林水産省が政策検討のために設定した20件以上の仮説に対して、デジタル庁がAIを活用して約8,000件の回答データを分析し、それぞれの「仮説の妥当性」を検証。→結果を農林水産省に回答することで、仮説の妥当性が短時間で把握可能に
- 職員1人が約2ヶ月間を要すると見込まれる分析作業を、AIの活用により約3日間まで短縮可能（効果はデジタル庁において推計）。大量データの集計・探索・仮説検証をAIが担うことで、行政職員は、政策課題の深掘りや追加調査、施策の比較検討など、より高度な分析・政策立案業務に集中することが可能に



これまでの業務

1. 膨大なデータに対して、エクセルシートを用いて、数十～数百パターンクロス分析（※）を手作業で集計する。
2. 集計結果から見えてくるデータの特徴や傾向をまとめる。
3. 特徴等から仮説を推理し、その妥当性を人間が検証する。
4. 問題があれば、新たな仮説を立ててふたたび検証する。
5. 妥当な検証結果に基づいて政策を立案する。



AIを活用した高度なデータ分析業務 （政府職員の政策立案の進め方が高度に）

1. まず、政策課題の解決に向け、多数の仮説を自由自在に考える。
2. AIに膨大なデータを分析させ、仮説の妥当性を検証させる。
3. AIから示される妥当性のある仮説（根拠）に基づき、政策を立案する。

まもなく、源内を活用することで、職員自ら実施可能に

※ クロス分析：複数のデータ項目を組み合わせて行う分析。例：年齢×性別×商品の購入履歴

政府におけるAI活用のベストプラクティス④（デジタル庁による支援）

【事例】診療報酬点数表の構造化等のトライアル実施（厚生労働省）

まもなく、源内を活用することで、職員自ら実施可能に

- 厚生労働省保険局から「膨大な文章量に及ぶ診療報酬点数表をAIで構造化したい。」との相談を受け、2026年8月、源内への実装を予定しているAIエージェント利用環境「源内工房」を活用し、4日間の先行トライアルを実施。

相談内容（厚生労働省→デジタル庁）

トライアルの成果

- ① 2年に一度の診療報酬改定に際し、計500ページ以上の診療報酬点数表(告示)の原文について、内容や文意を損なわないよう留意しながら、改行・字下げを行い、医療機関の職員等が読みやすい文書に整理したい。
- ② 診療報酬点数表に階層情報を付与し、構造をシステムエンジニアやAI等が容易に把握できる機械可読なデータ形式に変換したい。
- ③ 令和8年度診療報酬改定では、作成した成果物の確認に多くの人的作業を要したため、医科・歯科・調剤の3分野のうち、医科の一部の範囲で①を公開(期間限定・公開中止済み)するにとどまった。
- ④ このため、診療報酬点数表の構造化等に関して源内を活用した効率化・自動化の可能性を検証するため、診療報酬点数表を構造化するトライアルを実施したい。

- 4名の職員による4日間のトライアルで、①診療報酬点数表の人間可読性の向上、②機械可読性の高いCSV形式への変換を実現
- さらに、当初の相談内容を超えて③改定差分ビューアー(新旧の診療報酬点数表の変更箇所を見比べられる画面)、④図解を用いた広報資料案の作成までを実現。
- 特に、「①診療報酬点数表の構造化」については、民間事業者への委託では数か月間かかる業務について、職員自ら源内を用いて内製で対応できる可能性を確認。
- さらに、診療報酬点数表原本の組版割れをAIが発見するなど、作業時間の短縮にとどまらず、業務の精度向上にもAIが寄与できる可能性を確認。

A 2 1 1 特殊疾患入院施設管理加算（1日につき） 350点
注 重度の障害者（重度の意識障害者を含む。）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を主として入院させる病院の病棟又は有床診療所に関する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして、保険医療機関が地方厚生局長等に届け出た病棟又は有床診療所に入院している患者（第1節の入院基本料（特別入院基本料等を含む。）のうちの、特殊疾患入院施設管理加算を算定できるものを現に算定している患者に限る。）について、所定点数に加算する。ただし、この場合において、難病等特別入院診療加算は算定しない。

診療報酬点数表(原文)

A 2 1 1 特殊疾患入院施設管理加算（1日につき） 350点
注 重度の障害者（重度の意識障害者を含む。）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を主として入院させる病院の病棟又は有床診療所に関する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして、保険医療機関が地方厚生局長等に届け出た病棟又は有床診療所に入院している患者（第1節の入院基本料（特別入院基本料等を含む。）のうちの、特殊疾患入院施設管理加算を算定できるものを現に算定している患者に限る。）について、所定点数に加算する。ただし、この場合において、難病等特別入院診療加算は算定しない。

診療報酬点数表(階層化)

トライアル参加職員の声

- 思ったことがすぐ実行できる。成果物の精度も良い。ストレスも少なく、やっていて楽しい。
- 成果物の実現だけでなく、職員の認知能力も向上。クオリティを高められるのを実感する。
- 人より機械の方が、圧倒的にチェック精度は優れていると感じた。
- 既存業務の効率化だけでなく、新たな取組の創出にも有効。

デジタル庁

Digital Agency